

お知らせ

平成19年4月12日

同時提出先

島根県県政記者会、松江市政記者クラブ、出雲市政記者クラブ

斐伊川流域の水辺を考える懇談会 「宍道湖・大橋川の水辺のあり方」の提言を頂きました

記者発表資料

宍道湖周辺の水辺における取り組みなどをモデルケースとして、斐伊川流域の水辺の地域づくりや水辺景観のあり方などについてご議論いただくことを目的とした「斐伊川流域の水辺を考える懇談会」では、これまで5回の懇談会を開催し、議論を重ねてきたところであります。

このたび、第5回懇談会までの議論が「宍道湖・大橋川の水辺のあり方」（以下、あり方）として、別紙のとおりとりまとめられ、4月12日（木）に出雲河川事務所内1階大会議室にて、藤岡大拙座長が出雲河川事務所長へご提言されました。

本あり方では、美しい景観を保ち、地域のシンボルとして愛されている宍道湖周辺を活力ある地域にしてゆくために、地域への愛着を取り戻し、地域資源をうまく活用していく視点と努力が欠かせず、そのための一助とすべく、宍道湖・大橋川周辺の水辺景観のあり方がまとめられております。今回頂いたあり方については、今後宍道湖周辺で事業を進める場合の基本的な方向性を示す根本として取り扱っていく予定です。

過去の懇談会の概要、資料につきましては、出雲河川事務所ホームページでご確認いただけます。

<http://www.izumokasen-mlit.go.jp/mizubekondankai/top.htm>

別添 「宍道湖・大橋川の水辺のあり方」
参考資料1 設立趣旨
参考資料2 委員名簿

問 い 合 わ せ 先

国土交通省中国地方整備局	つちえ	せいじ
出雲河川事務所 副所長（技）	土江	清司
	みずくさ	こういち
調査設計課長	水草	浩一
TEL (0853) 21 - 1850		

宍道湖・大橋川の水辺のあり方

～斐伊川流域の水辺のあり方～

平成19年3月

斐伊川流域の水辺を考える懇談会

はじめに

斐伊川流域の人々の暮らしは、洪水の防御、新田開発と用水の確保、舟運の発展など斐伊川の変遷と密接に関わっており、水辺のもたらす恵みを享受しながら発展してきた。これからの流域における地域づくりを考えるに際しては、斐伊川を流れる水や周辺の自然環境、景観などをどう捉え、どう向き合っていくのかが大きなテーマとなる。

斐伊川流域の中でも、美しい景観を保ち、地域のシンボルとして愛されている宍道湖は、周辺の中海、大山圏域を含む山陰地方を代表する観光資源である。また宍道湖の周囲では、近年も斐川なぎさ公園、白潟公園、岸公園などの湖畔公園、水辺を活かした島根県立美術館や宍道湖ネイチャーランドの整備、遊覧船が運航されている松江堀川の導水事業など、地域づくりへの活用が進められている。

さらに、近年では、後世に残すべき風景として宍道湖水辺八景が新たに選定されるなど、水辺と暮らしのあり方を考える多くの材料を提供している。

経済の衰退や加速する少子高齢化などの課題を克服し、斐伊川流域を活力ある地域に創造してゆくには、地域への愛着を取り戻し、地域資源をうまく活用していく視点と努力が欠かせない。

そこで、将来にわたる斐伊川流域の発展や地域づくりの一助とすべく、宍道湖・大橋川周辺の水辺景観のあり方などについて提言する。

平成19年3月

斐伊川流域の水辺を考える懇談会



1 【変化に富んだ景観をつなぐ水辺】

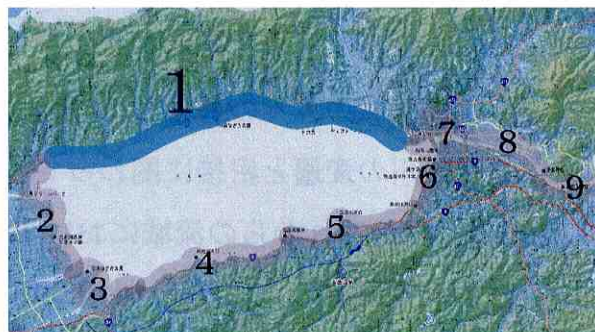
宍道湖北岸（松江しんじ湖温泉入り口～鹿園寺灘付近）

キーワード：

{自然：山並み、景勝地}

{人：車窓、里山、親水空間}

{感覚：変化のある風景}



出雲平野と松江市街地をつなぐ架け橋の役割を担う地域である。きらめく宍道湖の水際まで迫る山地やその山裾まで広がる農地、点在する集落群を通る電車や道路からは、山水、風光に恵まれた地域であることを感じることができる。

また、秋鹿なぎさ公園などの点在する親水空間は、心ゆくまで水辺に触れる機会と空間を与え、十六禿など、古来からの景勝地は、風景にとって絶妙なアクセントを与えている。

この地域は、水際部にヨシなどの水生植物を植栽することで、周辺の集落、田園、山地に違和感なく溶け込む印象をかもしだすとともに、サイクリングや散歩を楽しむ人々が移動の合間にしばし立ち止まりたくなるような、魅力的な親水空間の創出に努める。

また、この地域を通る視点からだけでなく、宍道湖西岸や南岸からの遠望も意識し、変化に富んだ独特の風景を壊さぬよう、背後の緩やかな山並みと調和した水辺となるよう配慮する。



2 【自然と人のふれあいを育む水辺】

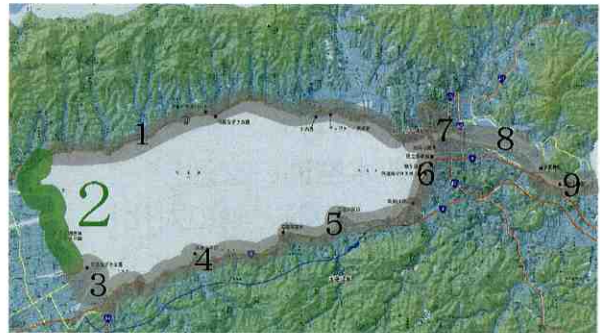
穴道湖西岸（鹿園寺灘付近～五右衛門川）

キーワード：

{自然：鳥、水生生物}

{人：親水空間、自然とのふれあい、学習}

{感覚：共生}



水辺の砂浜やヨシ帯の多くは人工的に再生された湖岸であるが、現在は鳥の採食場・休息場、魚介類の生息場など、生物にとって欠くことの出来ない営みの場として、周辺の生態系に組み込まれている。

この水辺の背後に広がる出雲平野は、築地松を擁する民家が点在する景観が特徴であり、その成り立ちからは、自然と人間の営みが昔から絶妙な間合いで調和してきたことに気づかされる地域である。

最近では、浅く緩やかに整備された水辺が、環境に配慮した湖岸整備のあり方を示す代表として知られており、自然とふれあいながら生態系を学ぶ環境学習の場として利用されている。

この地域は、自然とふれあうことができる水辺として、引き続き砂浜や、ヨシなどの植生帯の再生による水辺環境の保全に取り組み、さらなる利用促進を図る。

また、多様な生物を育み、自然とふれあいながら学習できる場を存続していくためにも、浅場や干潟など多様な水辺空間となるよう配慮する。



3 【湖水に人々を誘う水辺】

いざな

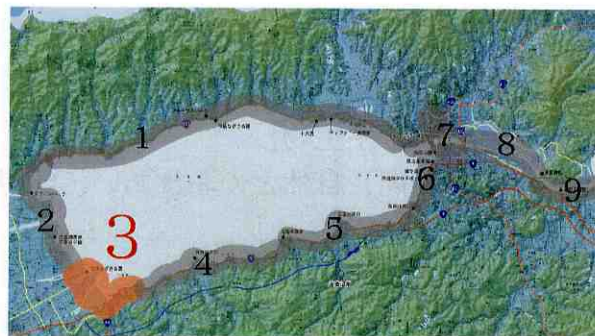
(五右衛門川～宍道中学校付近)

キーワード：

{自然：鳥、玄関口}

{人：釣り、親水空間、交通}

{感覚：自然と人の静と動の対比}



国道9号と国道54号の結節点に位置し、出雲空港や山陰道宍道インターを有する交通の要所となっている地域である。

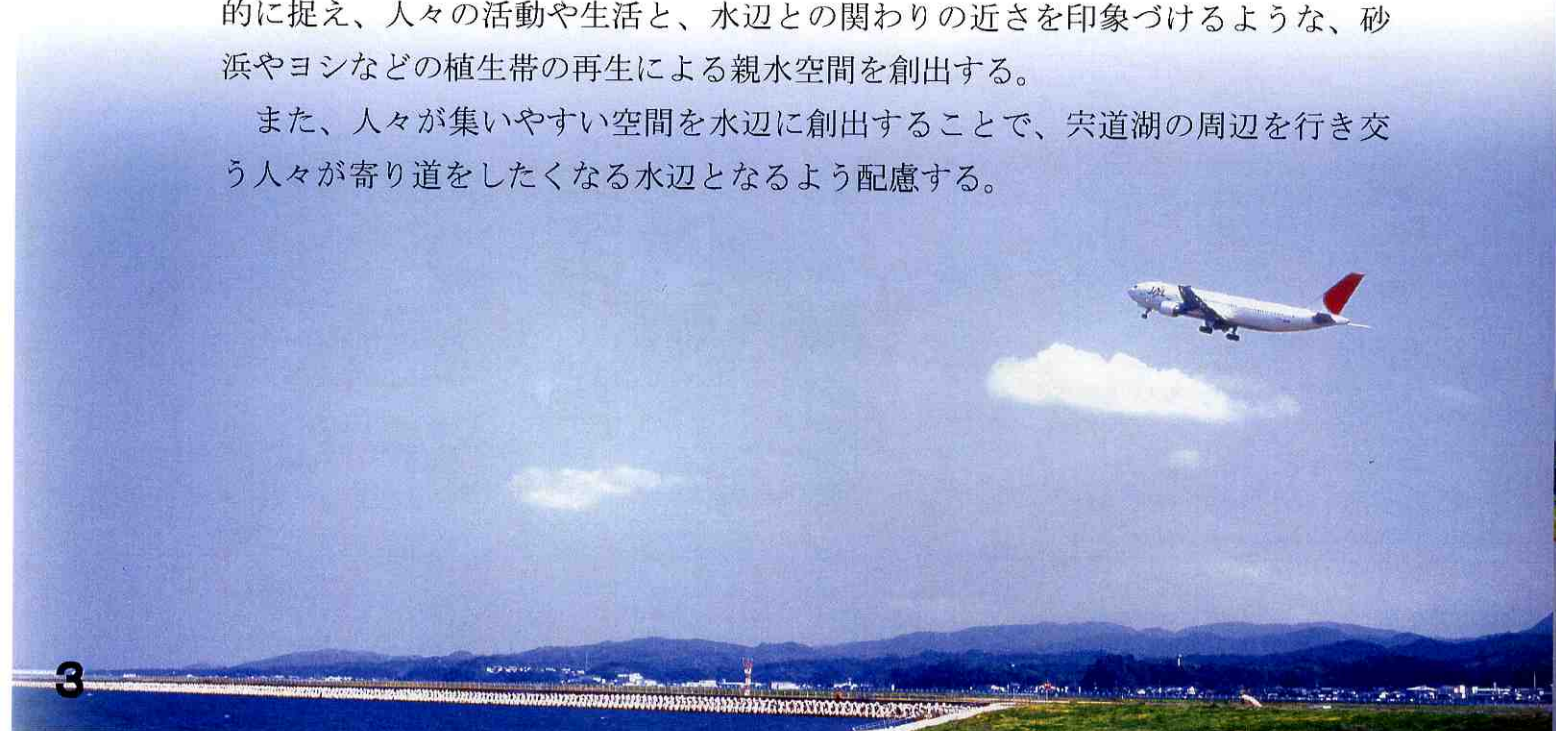
広島県や島根県西部など、南西方面から訪れる人々にとっては宍道湖の風景に初めて臨む場所であり、松江市街地方面から湖畔を移動してきた人々にとっては水辺から離れる地点でもある。付近の水辺では釣りを楽しむ人々も見られる。

空の玄関口である出雲空港周辺には空港なぎさ公園が整備され、砂浜と宍道湖の風景を楽しむことができる親水空間からは、迫力ある飛行機の離発着を間近に見ることができる。

水辺の背後に住まう農家により植えられ夏には咲き乱れるヒマワリや、物流の動脈として陸空をダイナミックに行き交う交通は、活発な人々の営みを感じさせるものの、ふと他方に目を向けると、隣に広がる水田には鳥が集まり餌をついばむ姿が見受けられ、人と自然がバランスを保ちながら共存していることに気づく。

この地域は、宍道湖の西の玄関口としての役割に配慮し、堤防や周辺部を一体的に捉え、人々の活動や生活と、水辺との関わりの近さを印象づけるような、砂浜やヨシなどの植生帯の再生による親水空間を創出する。

また、人々が集いやすい空間を水辺に創出することで、宍道湖の周辺を行き交う人々が寄り道をしたくなる水辺となるよう配慮する。



4【自然の恵みと歴史を感じる水辺】

(宍道中学校～鳥ヶ崎付近)

キーワード：

{自然：宍道湖の恵み}

{人：車窓、舟だまり、シジミ漁}

{感覚：風情}



古くから自然の恵みを楽しみ、そこに暮らす人々の生活の息吹を感じられる場として様々な表情を見せる地域である。

湖畔を走る鉄道や道路からは、それらの際まで立ち並ぶ建物沿いから、突然視界の広く開けた砂浜やヨシ帯、そして遠く湖面で揺らぐ水鳥など水辺の風景への躍動的な変化を繰り返し愉しめ、また宍道湖独特の水辺の近さを感じることができる。

背後の山地では、来待石が層を成しており、舟運の発達とともに宍道湖の湖岸用の石材として使用された如しよてい泥石を産出した歴史を受け継いでいる。

この、昔から連綿と続く人の営みと宍道湖との深い関わりは、舟だまりや作業小屋、シジミ漁の風景からも感じることができる。

この地域は、場所によって異なる自然や水辺の土地利用状況から、それぞれの営みの特徴を捉えた上で、いまの雰囲気や風情に応じた取り組みを行う。背後地に商・工業用地がある水辺では、ヨシなどの植生帯を整備することで無機質な印象を和らげ、湖の環境保全へと繋がるよう配慮する。砂浜やヨシ帯などが湖面と調和している水辺は、車窓からの視線を意識して、引き続き水辺環境の保全に取り組む。

また、背後が集落群となっている水辺では、舟だまり周辺で砂浜やヨシなどの植生帯の保全・創出を行い、生活の中に潤いの水辺空間が溶け込むよう配慮する。



5【湖畔の旅情を深める水辺】

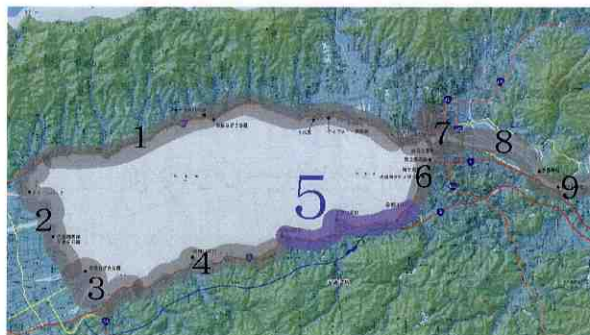
(鳥ヶ崎付近～忌部川河口)

キーワード：

{自然：温泉、鳥}

{人：松江の遠景、宿泊客}

{感覚：旅情、癒し、くつろぎ}



毎年多数の観光客が訪れる玉造温泉を背後に持ち、松江市街地に隣接するこの地域は、宍道湖越しに松江の街並みが見渡せ、朝靄、夕日、松江の夜景など、様々な風景を楽しむことができる。

鳥ヶ崎は高台から宍道湖を一望でき、その広がりを感じる事の出来る場所で、日差しを浴びた鳥の観察ができる。

旅人は、ゆったりとした宍道湖の風景を眺めて旅情を深め、地域の人々は、ぼんやりと松江の市街や湖面に浮かぶ鳥を眺めながら、喧噪から離れた宍道湖の水辺で安らぐことができる。

この地域は、宍道湖の豊かな自然に松江の街並みの遠景が調和しながら入り交じる景観を活かしつつ、地域の人々や観光客が憩える親水空間や砂浜などの水辺環境の創出に取り組む。

また、飛来する鳥を観察できる鳥ヶ崎周辺では、豊かな自然とふれあい、学習できる水辺となるよう水辺環境の保全・再生に配慮する。



6 【朝霧と夕日を愛でる水辺】

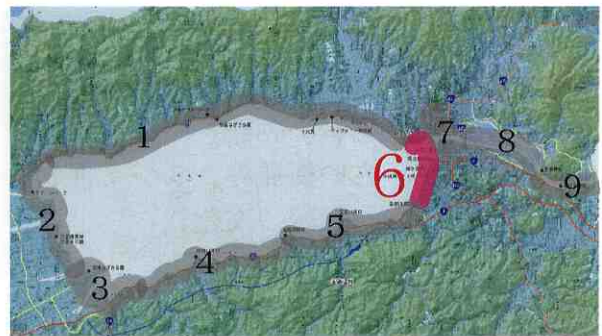
(忌部川河口～松江しんじ湖温泉)

キーワード：

{自然：夕日、朝霧}

{人：親水公園、シジミ漁、散策}

{感覚：憩い、集い}



小泉八雲をはじめとした、多くの文豪も愛した宍道湖の夕日を最も美しく望められる地域である。

末次公園前から、白潟公園、県立美術館前、夕日スポットと带状に続く親水空間では、都市の中における憩いの水辺として、地元の人々だけでなく、松江を訪れる県内外からの観光客にも利用されている。

特に、夕日の見える美術館としても知られる島根県立美術館前から夕日スポットにかけての湖畔は、休日ともなると多くの人で賑わう。

嫁ヶ島を前景に溶けゆく夕日は、宍道湖を代表する風景であり多くの人々の心を惹きつける。またこの付近では、朝もやとそこに浮かぶシジミ舟、夏の花火と秋のハゼ釣り、街の灯りを映す夜景など、時刻・四季折々に様々な風景が見られる。

その表情豊かな風景は、市民のみならず、松江を訪れる観光客をも魅了して止まない。

この地域は、観光地としての魅力を今後も高めていくため、風景の中に馴染むのはもちろんのこと、湖岸の回遊、散策、憩いに配慮し、ふらりと立ち寄った誰もが、使い勝手の良い、移動しやすい、国際文化観光都市にふさわしい水辺空間を創出する。

また、近隣の都市部に住み働く各人が思い思いの時間が過ごせる街の中のオアシスとしての位置付けにも配慮する。



7【歴史と文化の薫りを漂わせる水辺】

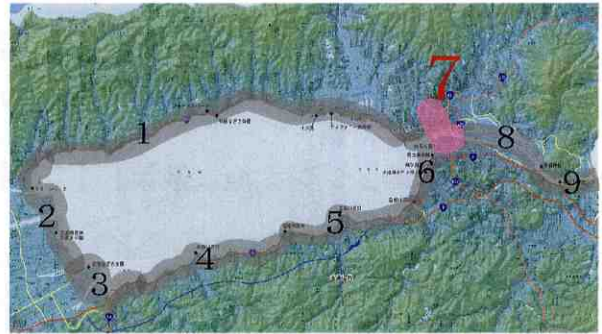
(穴道湖大橋～くにびき大橋)

キーワード：

{自然：夕日、朝日、朝靄^{もや}}

{人：水の都、古い街並み、シジミ漁}

{感覚：賑わい、伝統、文化}



松江城や堀川、大橋や老舗旅館など、古くから人々の暮らしの中心として発展した城下町の歴史と文化を感じさせる地域である。付近には、昔ながらの民家や商業施設が建ち並んでいるが、近年では近代的なビルもみられ、都市化の進展も感じさせる。

朝靄の中のシジミ舟、朝日・夕日・夜景、柳並木、遊覧船、遠くに浮かぶ大山など、水辺を装う風物があまたとある。特にこの地域では、街と水面の近さを感じることができる。



8 【水郷の原風景を伝える水辺】

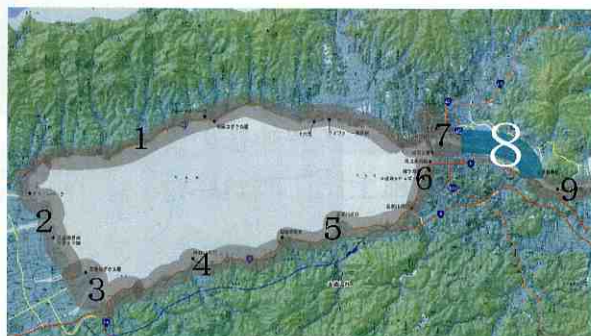
(くにびき大橋～多賀神社付近)

キーワード：

{自然：湿地、中洲、ヨシ原}

{人：水郷、水田}

{感覚：懐かしさ、落ち着き}



大規模な建造物も少なく、中の島や、中洲の水田・緑地・水路などが織りなす大橋川独特の豊かさを感じさせる地域である。

水際部を中心に、ヨシなどの湿性植物が分布し鳥などの生息地となっていると共に、沿川ではハゼなど釣りスポットとして親しまれている。鏡のように静かな水面をボートが滑るように進む背後には嵩山、和久羅山から伸びる稜線が広がっている。

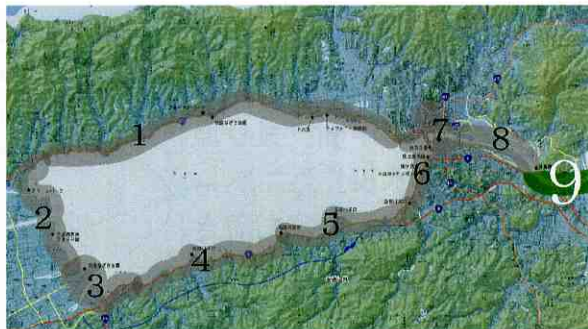


いにしえ いく
9 【古の流れを慈しむ水辺】

(多賀神社付近～大橋川河口)

キーワード：

- {自然：^{しおたてしま}塩楯島、^{たが}多賀神社の森}
- {人：歴史、風土記、渡し船}
- {感覚：悠久}




出雲風土記にも記載されている多賀神社や、塩楯島の手間天神社、長い間地域の文化的財産として受け継がれてきた「矢田の渡し」と周辺の赤瓦集落は、川とともに歩んできた歴史・伝統を感じさせる。下流にまとまった集落が存在する辺りは、戦国時代より明治にかけて主に帆船の風待港として利用され賑わいをみせていた地域である。

河口付近の川沿いでは、水際部を中心にヨシ等の湿性植生が分布し、背後の水田などが水鳥等の採食場・休息場となり豊かな自然もみられる。




穴道湖・大橋川の水辺のあり方

1 変化に富んだ景観をつなぐ水辺
【松江しんじ湖温泉入り口～鹿園寺灘付近】




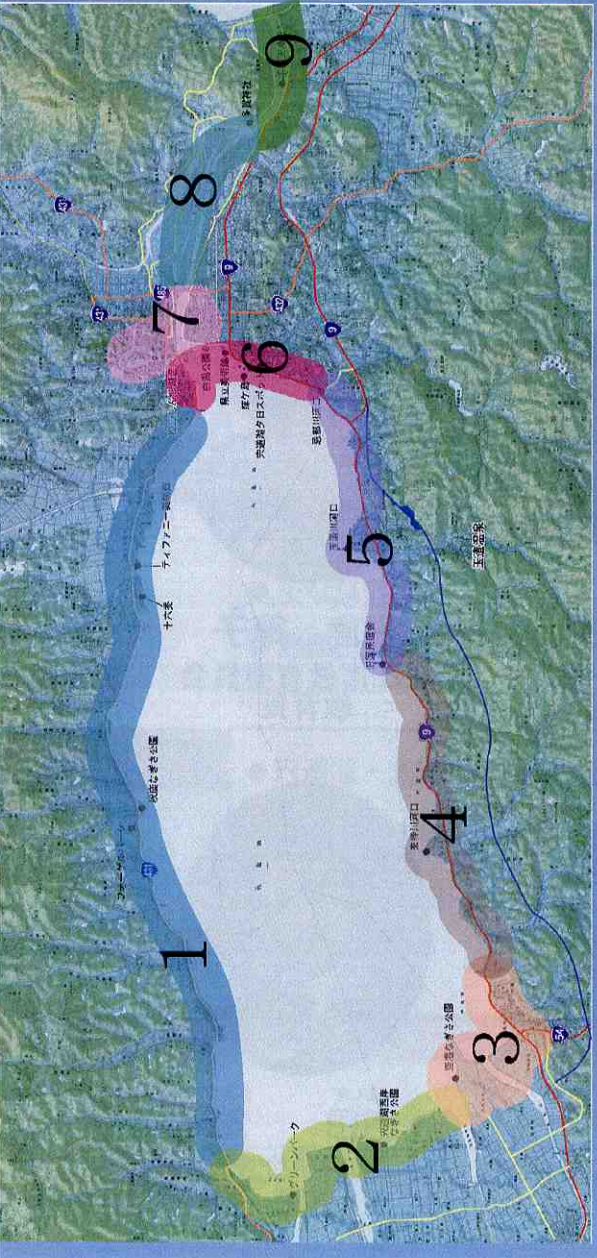
7 歴史と文化の薫りを漂わせる水辺
【穴道湖大橋～くにびき大橋】



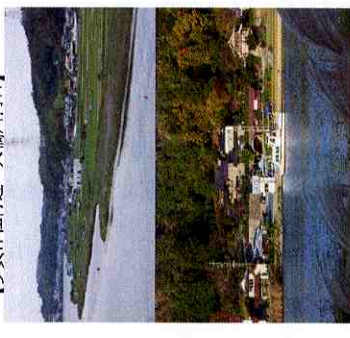
8 水郷の原風景を伝える水辺
【くにびき大橋～多賀神社付近】



2 自然と人のふれあいを育む水辺
【鹿園寺灘付近～五右衛門川】

9 古の流れを慈しむ水辺
【多賀神社付近～大橋川河口】



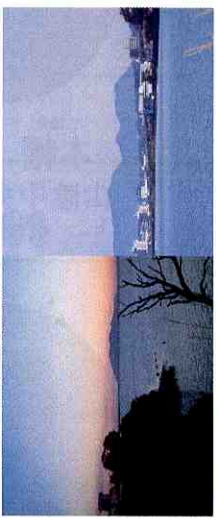
3 湖水に人々を誘う水辺
【五右衛門川～穴道中学校付近】



4 自然の恵みと歴史を感じる水辺
【穴道中学校付近～鳥ヶ崎付近】



5 湖畔の旅情を深める水辺
【鳥ヶ崎付近～忌部川河口】



6 朝霧と夕日を愛でる水辺
【忌部川河口～松江しんじ湖温泉】



斐伊川流域の水辺を考える懇談会

■委員 (敬称略 五十音順)



こはた しゅうすけ
木幡 修介
山陰中央新報社
相談役



しわく こういちろう
塩飽 浩一郎
前日本旅行業協会
島根地区会長



たごう やすひこ
田江 泰彦
島根県経済同友会
代表幹事



のつ とみこ
野津 登美子
ホシザキグリーン財団
企画交流課長



ふくしま りつこ
福島 律子
松江市教育委員会
教育長



ふじおか だいせつ
藤岡 大拙 座長
島根県立島根女子短期大学
名誉教授



まる いわね
丸 磐根
島根県商工会議所連合会
会頭

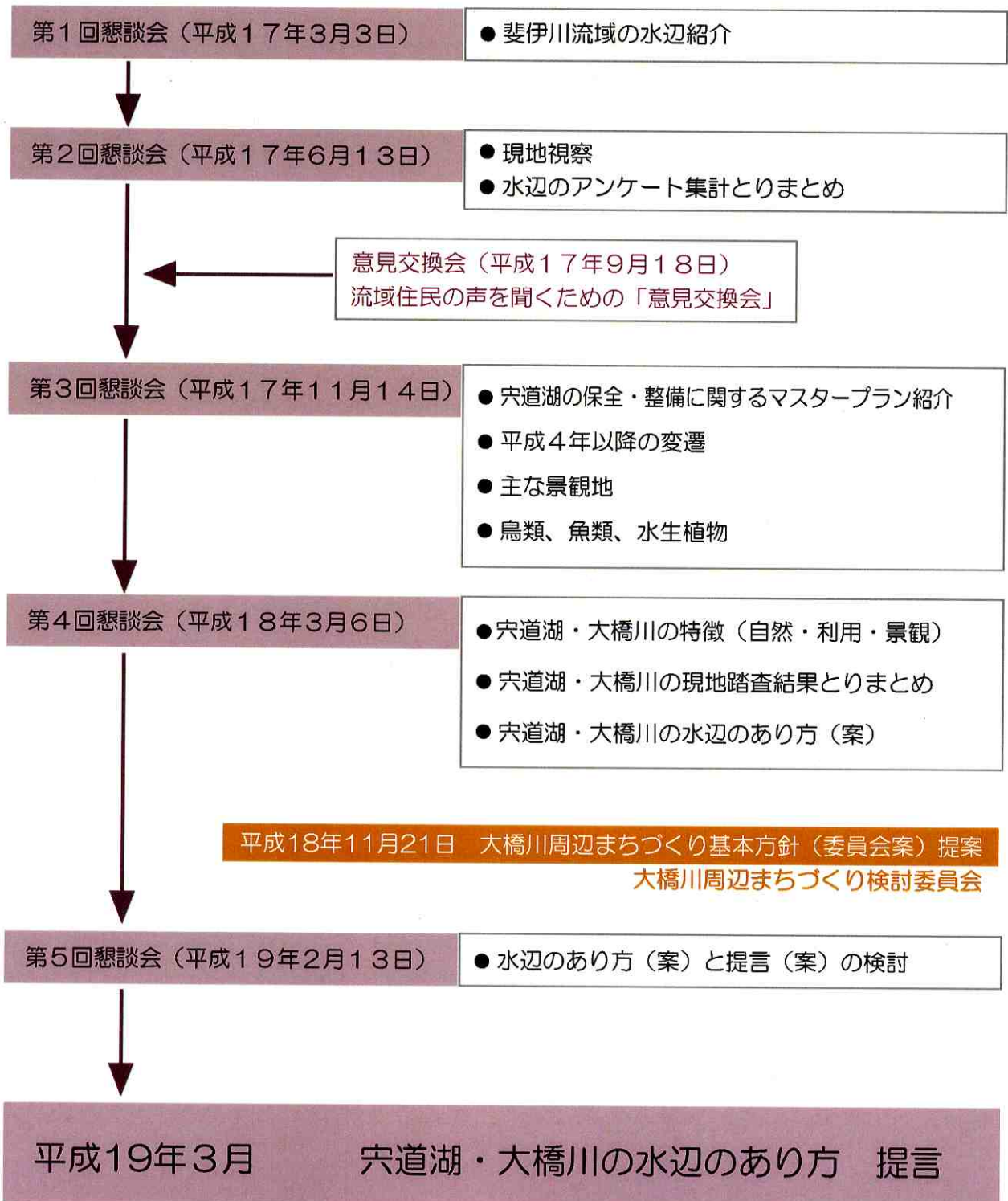


よしだ かおる
吉田 薫
風景研究室
代表

■事務局 国土交通省中国整備局出雲河川事務所

提案までの流れ

斐伊川流域の水辺を考える懇談会



斐伊川流域の水辺を考える懇談会

設 立 趣 旨

斐伊川流域の歴史は、洪水防御と新田開発、用水確保、舟運の発展など斐伊川の変遷とともにあり、沿川の人々の暮らしは、斐伊川のもたらす恵みを楽しみながら発展してきた。流域の暮らしは今も斐伊川と密接なかかわりを持っており、これからの流域における地域づくりを考えるに際しては、この斐伊川の水や自然、景観などどう捉え、どう向き合っていくのかが大きなテーマとなる。

斐伊川流域の中でも、美しい景観を保ち、地域のシンボルとして愛されている宍道湖は、島根県を代表する観光資源であり、近年も斐川なぎさ公園、秋鹿なぎさ公園、岸公園などの湖畔公園、水辺を活かした県立美術館や宍道湖ネイチャーランドの整備、堀川遊覧船が運航する松江堀川の導水事業など、地域づくりへの活用が進んでいる。さらに、昨年度は後世に残すべき風景として宍道湖水辺八景が新たに選定されるなど、水辺と暮らしのあり方を考える多くの材料を提供している。

経済の衰退や加速する少子高齢化などの課題を克服し、斐伊川流域が活力ある地域を創造してゆくには、地域への愛着を取り戻し、地域資源をうまく活用していく視点と努力が欠かせない。

そこで、宍道湖周辺の取り組みなどをモデルケースとし、斐伊川流域の水辺の地域づくりや水辺景観のあり方などについて提言をいただくことを目的に、「斐伊川流域の水辺を考える懇談会」を設立し、将来にわたる斐伊川流域発展の一助とする。

(参考資料2)

【斐伊川流域の水辺を考える懇談会委員名簿】

氏 名	所 属
木幡 修介	山陰中央新報社相談役
塩飽 浩一郎	日本旅行業協会島根地区会会長
田江 泰彦	島根経済同友会代表幹事
野津 登美子	ホシザキグリーン財団企画交流課長心得
福島 律子	松江市教育委員会教育長
藤岡 大拙 (座 長)	島根県立島根女子短期大学名誉教授
丸 磐根	島根県商工会議所連合会会頭
吉田 薫	風景研究室代表

敬称略、五十音順